



## アーティストからのことば



©浅田政志

### 有門正太郎

- ・高校生[的]ワークショップ・子どもの劇場体験2022～職場体験編～
- ・北九州市子ども・若者応援センター-YELL芸術体験ワークショップ
- ・キタQアーティストふれあいプログラム

子どもの劇場体験では、音響、舞台、照明の講座を聞き、発表に向け様々な意見を出し合いました。成果発表の真剣な眼差しとモノづくりを楽しむ姿勢が嬉しく、初日より少し大人に映りました。みんな素敵だった。小学校での子ども達から出る想像力豊かな発想、高校生のどどん目の色が変わる様の新鮮さ、親や先生以外のアーティストという価値観の違う大人と出会う事も大切な役割だと感じています。

### 島地保武

- ・島地保武ダンスワークショップ

ワークショップでさまざまな人と会うことが出来てとても刺激になりました。劇場と市民の距離が近く、ワークショップを定期的に開催している効果で、受講者の積極性を強く感じました。このままクリエイションをして市民参加型ダンス作品を上演できる可能性があるように思いましたし、その時は是非やってみたいと手をあげたいです。



© Ryu Endo



© Ai Hirano

### セレノグラフィカ (隅地菜歩・阿比留修一)・キタQアーティストふれあいプログラム

喜びや驚きを、わななくように伝えてくれる人たちがいて、それはこちらが予想するタイミング通りとは限らない。でもそれぞれが「ふれあい」の現場を濃く切なくし、まだ知らなかったことに気づかせてくれる。先生たちと目で合図を交わし、スタッフのサポートに支えられ、子どもたちの「本当」に触れる時間がそこにある。瞬間瞬間に立ち登る、「身体」の笑顔。

### 田村一行

- ・北九州芸術劇場×北九州YMCA学院×北九州市立大学国際交流プロジェクトFIVA 田村一行舞踏ワークショップ

この度、日本の大学生とモンゴルやネパールからの留学生の皆様と踊る機会をいただきました。表現は表現しない所に初めから存在し、私の仕事とはその魅力に指をさすだけでした。目の前に現われた時、既に個々の風景を背負い、その姿には自分が信じる踊りがありました。また皆様と一緒に、モンゴルの草原を駆け抜けるような時間を過ごせることを楽しみにしています。



©小林直博(観と亀)

### 中村蓉

- ・地域のアートレパトリー創造事業

今年度は北九州の芸術と文化を担う財団で働いていらっしゃる皆さまと踊り、職場にも伺いました。いつもお世話になっている北九州芸術劇場を隅々まで探索したり、埋蔵文化財調査室の方々が行う発掘現場にお邪魔してリバーウォークの立つ場所がまだ砂浜だった頃に思いを馳せたりしました。「歴史と今の交差点」そこにある芸術文化に熱い気持ちを注ぐ財団の皆さまとこれから踊っていきたいです！



©金子愛帆



### ノゾエ征爾

- ・ノゾエ征爾演劇ワークショップ

二日間で作るには無理とも思えるボリュームのテキストを用意し、私自身、ちょっと高望みすぎたかなと後悔しかけるも、それを全てスカッと払拭してくれたのは参加者でした。演劇が初めての方も多数、80代も数人いらっしゃいましたが、そんなことも忘れさせてくれる、濃ゆ〜い二日間でした。人を繋げて、最高の時間を生み出してくれる。この機会は貴重です。感謝。

### 太めパフォーマンス (乗松薫・鉄田えみ)・キタQアーティストふれあいプログラム

ギラダンスを通して、児童の皆さんの新たなものを発見した表情や、よくわからないものに好奇心を寄せたり、難しくても取り組む一歩の勇気なんかもみせていただきました。特に誰を応援したいかと問いかけた後のオリジナルポーズはそれぞれ雰囲気も異なり、とても素敵です。想像して表現することは生活を豊かにすると改めて気付かされました。



©宮川舞子

### 松岡大

- ・キタQアーティストふれあいプログラム

生徒たちの内から湧き立つ好奇心、ひたむきさ、徐々に芽生える自主性…それぞれが挑戦し、成長に向かう姿を垣間見ることが出来て、私自身も新鮮な充実感を得た3校でのワークショップでした。誰かに教えられる形ではなく、自然とダンスが生まれる瞬間が、とても素敵でした。体を動かす中で、仲間と分かち合う創作の喜び、もっともっと伸ばしていきましょう！

### 守田慎之介

- ・高校生のための演劇塾
- ・キタQアーティストふれあいプログラム
- ・北九州市子ども・若者応援センター-YELL芸術体験ワークショップ

たくさんの人に出会って、お話をして活動して、みんなのアイデアが膨らんで、作品をつくって、また会えたら嬉しいなって願いつつ、次の場所に進んで、また新しい人に出会って・・・ということ、みんな色々な形で繰り返して、この講座がその一部になれるんだなって事を各講座で感じられる一年でした。どんな形でも、また交わる日が来ればと願っています。

